種差小

自分の考えをもち、分かりやすく伝え合う子供の育成

～複式学習において、主体的・協働的に学びを深め合う授業づくり（算数科）～

（３年計画の３年次）

校長　　寺　口　朋　男

１　研究主題について

教育目標「自ら学ぶたくましい子」の具現化のためには、身に付けた知識及び技能を活用し、自ら考え表現し合いながら主体的に学ぶことのできる資質や能力の育成が重要であると考える。これを受け、昨年度は少人数学習において、主体的・協働的な学びを生み出す授業づくりについて研究した。その成果として、問題提示等の工夫により、問いが生まれ、主体的に解決しようとする姿に結び付いた。また、考えの違いを生かしてみんなで学ぶことを意識した授業づくりを行うことにより、みんなで解決しようという気持ちが高まり、分かりやすく説明しようとする態度が育ってきた。一方で、間接指導場面において主体的・協働的な学びを生み出す手立てを工夫するとともに、児童の学びを教師が適切に把握し児童の思考過程を大切にした学びを継続させていくことにより、学力を着実に高めることが課題として挙げられた。

そこで今年度は、複式学習において主体的・協働的に学びを深め合い、算数科で求められる資質・能力を高める授業づくりについて、授業実践を通して明らかにしていきたい。

２　研究のねらい

複式学習において、主体的に考え、伝え合うことによって学びを深め合える子供を育てるために、効果的な指導法を算数科の実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

間接指導場面における効果的な授業展開を工夫することにより、複式学習において主体的に考え、協働的に学びを深め合う力を高めることができると考える。

４　研究内容

(1) 間接指導場面において主体的・協働的な学びを生み出すための指導

ア　効果的な学習指示の在り方（ガイドの育成、活動内容の明示）

イ　直接指導場面における指導の工夫（問いを生む工夫、解決の見通し）

(2) 児童の学びを教師が把握する方法

ア　思考過程を残す工夫（黒板、ミニボード、ノートの記述、ふりかえり）

イ　学習過程の工夫（同時間接指導、わたり後の児童の報告）

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内容・学年・題材名・授業者
６	３	三八管内複式学級担当者研修会公開授業 １年「ふえたりへったり」２年「たし算とひき算のひっ算」授業者　小林美奈子 ３年「表とグラフ」　　４年「１けたでわるわり算の筆算」授業者　山内　温子 ５年「割合を表す小数」　６年「割合を表す分数」　　授業者　阿保　祐一
９	１	授業参観ウィークⅠ
１０	２７	授業参観ウィークⅡ
１１	９	南浜中学校区小・中ジョイントスクール
１１	１８	教育指導課・総合教育センター訪問

(2) 一般研修

月	日	内　容　・　講　師　等
４	４	非違行為根絶のための研修　　講師　教頭　山口将貴
７	１３	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり 講師　教育指導課　大野勉主任指導主事
８	３１	県学力調査採点及びNRT分析結果についての考察と対策
９	２１	考え議論する道徳の研修　　講師　根岸小学校　佐藤直子教諭

６　研究の成果

(1) 効果的な学習指示の在り方を工夫するとともに、ガイドを中心とした学びを進める授業づくりに努めたことにより、間接指導場面において、主体的・協働的な学びが見られるようになってきた。

(2) 間接指導場面における児童の学びの状況を把握するための工夫や同時間接指導を意図的に設定し俯瞰して学習状況を把握したことにより、思考が途切れることなく学びを継続させることにつながった。

７　研究の課題

(1) 算数科の指導で取り組んできた「問いを生む工夫」や「学びの継続」を他教科に広げて、問題解決への必要感・切実感を高める指導の在り方について研究を深めたい。

(2) 話合い場面における相互理解が不十分な場合に、学びが深まらないことが課題として挙げられた。お互いの考えを解釈し合うことにより、より協働的に学びを深める授業づくりについて研究を深めたい。

（記入者　小林美奈子）